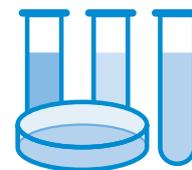


細菌検査統計報告 (当検査センター受託分)

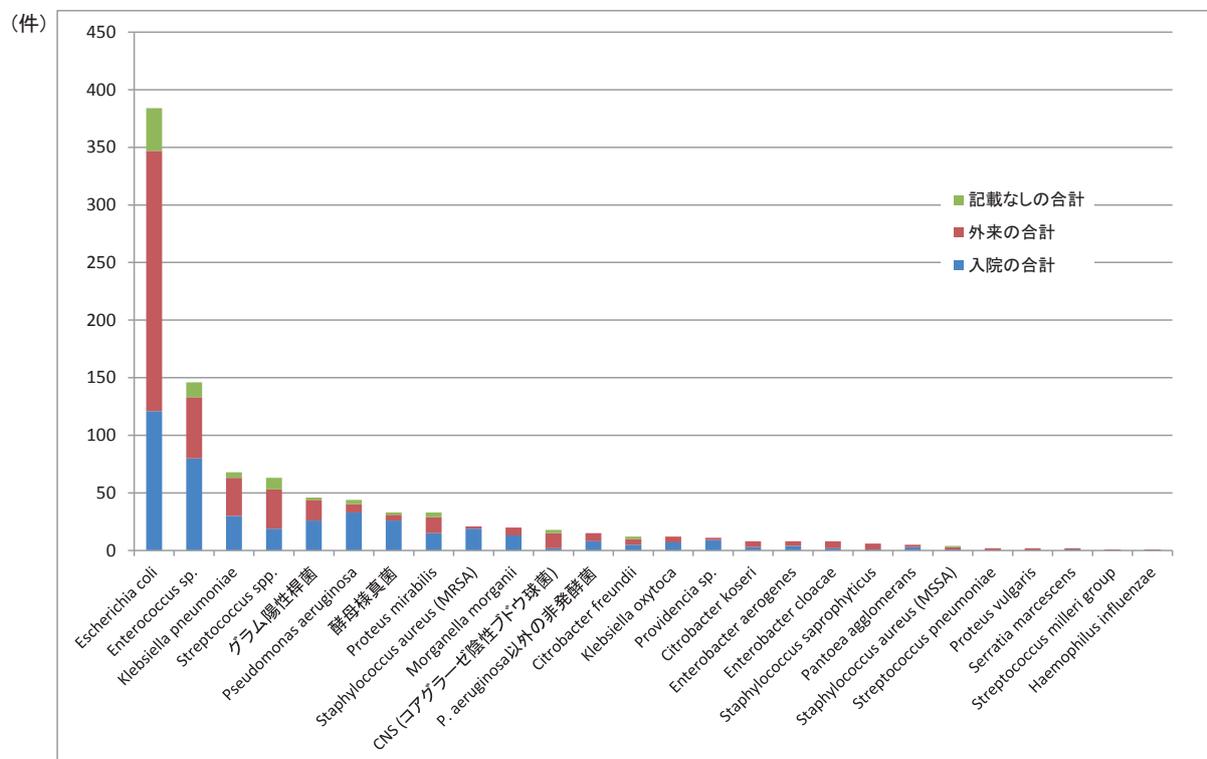


当検査センターで受託した細菌検査における細菌検出状況及び薬剤耐性菌分離状況を一部取り上げご報告いたします。全体の情報は当検査センターホームページに掲載されていますので、併せて診療にお役立ていただけたら幸いです。

今回は、尿からの細菌検出状況と薬剤耐性菌分離状況について掲載いたします。

【細菌検出状況】

【尿】細菌検出状況 2018年10月



尿からの細菌検出状況では、1年を通して Escherichia coli（大腸菌）が一番多く検出され、次いで Enterococcus sp.（腸球菌）が検出されています。

Enterococcus sp. はグラム陽性球菌で、健常人の腸管内に常在しています。本来は弱毒菌であり、健常人では感染症が生じることはまれですが、免疫機能が低下した易感染者の場合には尿路感染症、胆道感染症、血流感染症などの起炎菌となることがあります。

また、バンコマイシンに耐性を獲得した Enterococcus sp. をバンコマイシン耐性腸球菌（VRE）と呼び、感染症法の5類感染症に指定されています。VREは細菌検査統計を開始した2015年から当検査センターでは検出されていません。

【薬剤耐性菌分離状況】

2018年10月分

耐性菌名		呼吸器系		消化器系		泌尿器系		血液・穿刺液系		その他(膿など)	
		耐性率 (%)	件数	耐性率 (%)	件数	耐性率 (%)	件数	耐性率 (%)	件数	耐性率 (%)	件数
ESBL(基質特異性拡張型β-ラクタマーゼ産生菌)	Escherichia coli	50 %	15	9 %	8	27 %	114	29 %	4	17 %	4
	Klebsiella pneumoniae	3 %	2	0 %	0	6 %	4	17 %	2	0 %	0
	Proteus mirabilis	52 %	12	0 %	0	26 %	9	0 %	0	14 %	1
	Klebsiella oxytoca	14 %	1	0 %	0	0 %	0	0 %	0	0 %	0
CRE(カルバペネム耐性腸内細菌科細菌)		0 %	0	0 %	0	0 %	0	3 %	1	0 %	0
MDRP(多剤耐性緑膿菌)		0 %	0	0 %	0	2 %	1	0 %	0	0 %	0
MBL(メタロβ-ラクタマーゼ産生菌)		0 %	0	0 %	0	2 %	1	0 %	0	0 %	0
MDRA(多剤耐性アシネトバクター)		0 %	0	0 %	0	0 %	0	0 %	0	0 %	0
MRSA(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌)※1		64 %	175	32 %	11	67 %	22	50 %	14	39 %	145
PRSP(ペニシリン耐性肺炎球菌)		0 %	0	0 %	0	0 %	0	0 %	0	0 %	0
VRE(バンコマイシン耐性腸球菌)		0 %	0	0 %	0	0 %	0	0 %	0	0 %	0
BLNAR(β-ラクタマーゼ非産生アンピシリン耐性H.influenzae)		18 %	45	0 %	0	0 %	0	0 %	0	15 %	3
BLPAR(β-ラクタマーゼ産生アンピシリン耐性H.influenzae)		6 %	14	0 %	0	50 %	1	0 %	0	0 %	0
BLPACR(β-ラクタマーゼ産生アモキシシリン・クラバン酸耐性H.influenzae)		2 %	5	0 %	0	0 %	0	0 %	0	5 %	1

耐性率 = (材料別耐性菌件数) ÷ (材料別対象菌件数) × 100

※1 耐性率 = (材料別MRSA件数) ÷ (材料別黄色ブドウ球菌件数) × 100

10月は、泌尿器系の検体からメタロβ-ラクタマーゼ産生菌 (MBL) が1件検出されています。メタロβ-ラクタマーゼ産生菌 (MBL) は、カルバペネム系薬をはじめとするモノバクタム系を除くすべてのβ-ラクタム系抗菌薬を分解する酵素を産生する薬剤耐性菌です。

メタロβ-ラクタマーゼ産生菌 (MBL) は Pseudomonas aeruginosa で多く検出されており、今回当検査センターで検出された菌種も Pseudomonas aeruginosa でした。

当検査センターホームページでは細菌検出状況(検査材料別)、細菌薬剤感受性情報(菌種別)、薬剤耐性菌分離状況についての情報をご覧いただけます。

<http://www.labo.city.hiroshima.med.or.jp/>
検査科微生物係